

平成26年度第3回
八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

開催日時	平成26年10月2日(木) 午後1時30分～午後3時30分
開催場所	大田原市 那須与一伝承館多目的ホール
出席者	<p>【委員 17名】 小林会長、玉木副会長、北島委員、江部委員、戸澤委員、渡邊委員、室井委員、村山委員、川崎委員、星(史)委員、矢内委員、大相委員、鈴木(英)委員、鈴木(美)委員、吉田委員、川井委員、石井委員</p> <p>【欠席委員 6名】 川嶋副会長、岡野委員、荻原委員、野口委員、鈴木(義)委員、星(昌)委員</p> <p>【オブザーバー 11名】 福島県、茨城県、栃木県、那須塩原市(2)、那須町、那珂川町、棚倉町、矢祭町、埴町、大子町</p> <p>【大田原市 6名】 永山副市長、市民生活部長、産業振興部長、建設部長、水道部長、教育部長</p> <p>【事務局 6名】 総合政策部長、政策推進課(5)</p>

1 大田原市長挨拶(副市長代読、要旨)

- 津久井市長は別の公務があるため欠席となり、副市長が市長挨拶を代読する。
- 八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会に遠方より、またご多忙の折ご出席いただき御礼申し上げます。
- 平成26年度内の共生ビジョン懇談会は今回をもって最終となるが、第1回懇談会から貴重な意見、提言をいただき感謝申し上げます。
- 今年度の懇談会で出された提言等は、次年度以降の共生ビジョンに反映させていきたい。
- 本市としても引き続き、八溝山周辺地域定住自立圏の「中心市」としての役割を担い、圏域全体で自立した総合的な地域形成を目指し、着実に歩みを進めていくので、今後とも協力願いたい。

2 内 容

(1) 報 告

①八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員からの質疑について

資料 1 により事務局説明

②今後のスケジュール等について

資料「八溝山周辺地域定住自立圏のスケジュール」により事務局説明

⇒質疑等なし

(2) 八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョンについて

資料 2、3 により事務局説明

説明要旨

- ・資料 3 共生ビジョン素案の主な変更箇所として、表紙レイアウトの変更、テーマ「持続的、魅力的で幸福感あふれる圏域づくりをめざして」の追加、72 ページから資料編を追加した。
- ・事業費について、現行予算及び 9 月補正予算と照合し所要の修正を行った。

(3) 意見交換

会 長	事務局の説明が終わったので、ここからは質問を含めた意見交換を行いたい。
委 員	大田原市では、現在小中学校の学校給食費の無料化を行っているが、近隣の市町では同様の施策は行っていない。 無料化歓迎という話を聞く一方で食育、食べ物大切さを教える上ではお金を取った方がいいという話も聞いている。 学校給食費の無料化については、大田原市だけが実施するのではなく少なくとも栃木県内の構成市町間で調整を図っていかなければいけないのではないか。
会 長 教育部長	学校給食費の無料化について教えていただけないか。 食育ということで、全ての子ども達が等しくという考えの下実施している。小学校で月 4,200 円、中学校で月 4,900 円を補助という形で無料化している。 委員ご指摘のように賛成の方もいれば、それくらいの金額は親の義務だという考えの方もいるが、トータル的に考え実施している。 圏域内市町の考え方を統一してはということに関しては、各市町で様々な事情があると思うので、これから先の話し合いの中で検討していきたい。
委 員	前回の懇談会で道路インフラ整備に関して、野崎工業団地で要望を出しているという話をし、玉木副会長からも別の要望を出しているという

補足があり、また、9月末の商工会議所の県大会で国道4号線と八溝の県北の2路線について提言が採択された。

そういった内容を踏まえて、前回の懇談会でこういった団体の要望を取りまとめてはという意見を申し上げたが、圏域図を作成するということとは位置的に違うのかなと感じる。

この場合は、3県を跨いだというところに特徴があるので、その辺の特徴を活かしつつ、なおかつ他の団体の提言を参考にしながら活動を進めていただきたい。

会長
建設部長

改めて道路整備に関しての大田原市の考えは。

八溝定住自立圏においては、これまでの部会等の中で圏域内60分構想ということをもっと考えさせていただいた。

その中で主要道路のインフラ整備が重要だろう、各市町にもそれぞれ道路整備促進のための同盟会組織があるが、新たに2市6町で同盟会を組織し、要望活動を行っていきこうということになった。

具体的に主要地方道黒磯棚倉線、国道118号線、国道461号線の三路線を最優先道路として位置づけた。

そして、要望をする上で圏域内の主要道路を網羅した道路マップを作ろうということになったというのがこれまでの経緯。

委員

2025年に超高齢化社会になるという予測があるが、共生ビジョン素案P19にある介護予防推進事業の中で幸齢者スクールでは、具体的には何を行うのか。

総合政策部長

幸齢者スクール事業は、大田原市と国際医療福祉大学との折半により、介護予防や健康でいられるための実践的なワークショップを大学との連携により実施している。

この事業を大きな枠組みでどう取り組んでいくのか検討している。

会長

国際医療福祉大学には、リハビリテーション、福祉関係の様々な学科があり、その中で教員の専門性を活かして、大田原市の高齢者を対象に簡単なリハビリ方法などを実践的に教えている。

キャパシティの関係、ゼミ形式の実施ということから、人数制限をかけているが、大学としても大田原市だけではなく、他市町とも連携していきたいという考えはもっている。

委員

道路のことにに関して、黒羽地区、湯津上地区では、水戸ナンバーの車を多く見かける。休日になると大田原市の中心部にある東武デパート辺りは渋滞が発生し、一般住民による広域化は図られているのかなと思う。

15年位前になるが、大田原市須賀川地区に陸橋をつくるという計画があったが、残念ながらご破算になった。明神峠から黒羽地区に抜ける

道は、カーブが多いので事故が起こらないか心配している。

国が計画していたことを早く実行して、県北の交通の流れをもっとよくしてほしいと思う。

委員長 そういふ思ひは皆さん共有できていると思う。

須賀川地区の話になるが、昨年度はイノシシ対策のため、道路の景観整備が行われた。しかし、今年度は実施されていない。中山間地の道路では、草が生い茂り、木の枝がかかっていることが見受けられる。

こういった道路の景観整備を是非続けていただきたい。

それから、地域公共交通について、他市町村との公共交通の連携はどう行っているのか。商工会議所の企画で、市営バスを乗り継いで、黒羽の雲巖寺や大雄寺を巡るツアーがあり好評と聞いている。

路線バスで八溝山を巡るといふことができればいいとは思ふが、他市町村との連携が分からないので教えてほしい。

会長 地域の交通計画の下で市町村域を越えるといふことに関して、或いは定住自立圏として現状ではどのように考へているのか教えてほしい。

市民生活部長 路線バスが県域を越えることについては、陸運支局の許認可の関係で非常に難しい。それから市町村で公共交通会議をもっているが、市町村の区域を越えるといふのも中々難しいといふのが現状である。理由としては、市町村間の調整だけではなく、タクシーやバス事業者との調整が必要であり、それが相当大変なためである。

それと地域公共交通は、誰を運ぶのか。対象を福祉にするのか、交通の空白輸送にするのか、その場合誰が乗るのか。1日当たりの乗車見込数これら全てを計算してから、バスを走らせるといふ考へである。

デマンド交通もあるが、これも区域を越えることはできない。

現在、那珂川町の小川仲町から大田原市を通過して西那須野駅までの東野交通の区間 200 円運行を実施している。小川仲町から馬頭までの区間は距離別に運賃がかかるが、このときは事業者間調整ができずに 200 円運行ができなかったといふ経緯がある。

委員 予算について、中心市 8,500 万円、連携市町で 1,500 万円を上限に特別交付税措置されるとのことだが、資料 2 の赤字の部分がその対象となるのか。

それと要望になるが、大田原市は市内全域で安心生活創造事業を行い、独居高齢者の見守りを行っているが、福祉関係の一環として、正に地域で自立していこうといふ事業なので、こういった事業に対しての支援はできないのかお伺いしたい。

事務局 資料 2 の黒字で示している事業費が特別交付税の対象となる。赤字は新規事業として実施するもの。

総合政策部長

安心生活創造事業について、かつてこの事業を国が推奨したときに3年間の期限付きで国から補助金が支出されていたが、現在は100%大田原市の単独財源で事業を実施している。

活動の支援に関しては、次年度以降共生ビジョンの改定の中でそのような考え方が盛り込めるかどうか部会の中で検討していきたい。

委員

地域公共交通に関して広域連携ということが難しいことは理解している。しかし、こういう機会がなければ、一堂に会して討論する場も設けることすらできなかったと思う。予算措置はゼロだが、次年度以降検討の課題に挙げていただけることを期待している。

それから、観光の面から那須塩原駅周辺の整備について、一次交通の県北の基幹駅となっているので、景観整備、機能の充実を考えていただきたい。

委員

国道4号バイパスについて、歩道に草が生い茂っており、非常に荒れていると感じている。放射能の関係で草の処分ができないから景観整備をしないという噂も聞いているが、最近、道路の景観整備がされていないと感じる。

那須町においては、道路河川愛護会が年5回地域や自治会ごとに景観整備を行っている。那須町は観光地であるので、景観を維持するため、交通の安全確保のためにもやるべきだと思う。

国、県道が主になると思うが、景観整備に関して、地域でできることは、地域に任せるといったような体制を整備してほしい。

また、観光地だけの道路だけではなく、そこに至る道路も連携して景観整備に取り組めるような仕組みを作ることを要望する。

委員

地域公共交通に関して、人口の急激な減少に対しての対策が急務であろうということで、有識者を介して共生のビジョンを作成してはということだと思うが、申し合わせたように予算がゼロベースになっていて、共生しているイメージが湧かない。共生するには難しいこともあると思うが、急務にやっていただきたい。

委員

道路整備について、那珂川町には3本の国道があるが、国道461号線の大田原市との市町境付近は未だ狭隘で非常に不便である。

八溝共生ビジョンの中で、交流人口を増やすために道路整備は欠かせないと思うが、圏域内には狭隘な道路が多く要望活動をどのように進めていくのか、どう整合性を図っていくのか。

それと、獣害対策について八溝山はイノシシだが、那須町の方は毎日のように熊が目撃されるなど住民の安全対策という観点も加味して取り組んでほしい。

会長

獣害対策については市町村の事業だと思うが、お互いが情報交換し、

有効な対策について協力していければ、実効性がでてくるのではないかなと思う。

委員 共生ビジョン素案の P46 から P48 の交流イベント、婚活について、予算も多くついているので、内容を充実させ実施していただきたい。

委員 共生ビジョン素案 P27 広域観光推進事業について、観光 PR や物産販売を行うとあるが、観光 PR などの観光情報は、圏域内への発信と、圏域外への発信があり、圏域内交流を進めるのであれば、当然、圏域内に向けて発信しなければならないが、将来的に住民同士が県のアンテナショップなどを活用して、圏域外に発信できるようなことになることを期待する。

会長 それと、道路整備に関して、要望活動は生活道路が中心となるという説明があったが、八溝山を拠点とした周辺の道路整備に関して、将来的には観光交流の面からも期待できると思うので今後検討いただければ。

委員 観光交流と道路整備に関しては、鶏と卵の関係のようで、交流が進めば道路が整備されるのか、道路が整備されてから交流が進むのかジレンマがあると思うが、交流に関しては情報の共有、発信などお金をあまりかけずにできるので、知恵の勝負になってくると思う。

委員 観光を考えると、棚倉町や塙町に歴史的なものがあるが、昔の人はストーリーがあって、それが全部流れて歩いたのだと思う。

会長 そういうストーリーを示してあげれば、好きな人は案内所で聞いて歩いたりするのだろうと思う。観光面からするとそういうことの積み重ねなのかなと思う。

委員 それと高齢者に関して、健康な人も多いと思うので、ヨガやセラピスのインストラクター養成講座などができればと思う。

会長 高齢者というと、介護や認知症などがイメージされるが、数としては健康な人の方が多い。その人たちがどう健康を維持していくのかということも検討が必要だと思う。

委員 外部人材の確保に関して、共生ビジョン素案 P55 に塙町の地域おこし協力隊が紹介されている。地域おこし協力隊は各自治体で募集し、地域振興を担う制度だと思うが、こういう制度を八溝定住圏の中でどう連携していくのか。

事務局 地域おこし協力隊については、各自治体で募集し、地域振興のために任用する制度となっており、塙町をはじめ、那須塩原市、那珂川町、棚倉町、大子町でも取り入れている。

委員 この制度に関してどう広域的に取り組むのか検討はこれからになる。

委員 大子町から大田原市に行くのには明神峠や国道 461 号線を利用するが、トンネルができ、道も広くなり以前よりは行きやすくなったと感じ

る。大子町の西側の住民は、買い物などで大田原市に行くという話を聞いている。

大子町では、町内の商業振興としてプレミアム商品券を1億円分発行していたが、8月に2億円にした。

そのほかにも、高齢者に対する敬老の商品券、新生児すくすく育児券なども町で発行している。

大田原市も育児支援券を発行していると聞いているが、どういう制度なのか。

産業振興部長

名称は大田原市子育て支援券で、支援券が使える登録業者数は市内に約550あり、支援券は誰でも買えることができる。使用された支援券を業者が換金する際に1%の手数料が発生する。その1%の手数料と同額を大田原市が支出し、子育て環境の整備に使っている。

委員
事務局
委員

具体的な使いみちは。

子どものヒブワクチン接種の助成に使った。

冒頭事務局から白河市の定住自立圏の話があったが、白河は南東北の八溝は北関東のイメージづくりを進めることをまずもって提案する。

それから前回の会議で多面的機能支払について提案したが、今回事務局から明確な回答をいただいたと思っている。

なぜ、明確かという、大田原市として総額7,300万円、1団体あたり100万円前後の支出をしている。市町村によってはこれが30万円であったり、50万円であったりと温度差があるが、この圏域では大田原市が首位であろうと思う。大田原市から周りの市町村への提言、指導をお願いしたいと思う。

道路整備に関しては、大田原市と各市町が連携して利便性の向上を図るという協定を締結しているので、約束事を忠実に守らせることにより、草刈りや見た目のきれいさを維持できると思う。

道路のイメージづくりという提案が出たが、私は街道づくりだと思う。白河街道や那須街道にはそれを示す長い菱形のような標識があるが、統一した様式で作成してはどうか。国道461号線の話が先ほどから出ているが、私たちにとっては大田原へに行く道、いわゆる大田原街道だと思っている。圏域のタテ道、ヨコ道に設置することにより、そこを通る者に道路はどこまでも続いているというイメージを植え付けることができる。

電気自動車の導入促進に関してはこれからの時代非常に大事なことだと思う。

先日、日産自動車在全国に6,000か所の充電設備を無料で設置するという報道があった。栃木県内の道の駅にはほとんどの施設で充電設備が

委員

整備されている。先手必勝で充電設備設置に手を付けるべきだと思う。大子町には横浜ゴムのテストコースがあり、那須塩原市にはブリヂストン、日本 ABS の工場がある。こういうところに力を入れ電気自動車の民間への普及についての取組を行ってほしい。

観光については、交流が不十分であると思っている。

私ごとだが、60 歳を過ぎて初めて矢祭町の戸津辺の桜を見に行った。大子町では通称もみじ寺と呼ばれる永源寺も見事であるが、情報を発信する側の努力が足りないのか、受信する側の感度が鈍いのか栃木県内ではほとんど知られていない。情報を共有して発信して行ってほしい。

道路整備も大切だが、人が行き来するところに道路ができると思う。

子育て環境の面から、小学校が地域になれば若い人は引っ越してしまおうと思う。経済効率を優先し、小学校の統廃合を進めることはやめていただきたい。

地域のシンボルである小学校がなくなることで、その地域の衰退につながっていくと感じている。

委員

観光事業は道路インフラに関係があると思う。道路インフラと観光で、また観光の資源として、歴史、文化、芸術もあると思う。共生ビジョンの事業では、今言った内容（観光／道路インフラ／歴史、文化、芸術）が別々の項目となっている。

その辺の項目の横の連携はどう考えているか。組織的な面も含めてご回答いただきたい。

総合政策部長

事業間の連携については、大田原市の中心市としての責務だと考えている。大田原市では、庁内に検討委員会を設置し、それぞれの事業の進捗状況報告や関連する事業がないかなど月 1 回会議を開催している。

委員ご指摘の件については、肝に銘じ次のステップの糧にさせていただきます。

委員

この近辺にパイプオルガンがあるのは大田原市だけである。

設置してあるハーモニーホールからの積極的で市民に分かりやすい PR ができていないと感じるがどう考えているか。

教育部長

パイプオルガンは昨年度設置した。市民の方から曲目が分かりにくいというご指摘もあることは承知している。

できてから 1 年を経過していないので、今後の検討課題とさせていただきます。

会長

今年度 3 回のビジョン懇談会を開催し、専門的な見地から様々な提言をいただいたが、具体的な事業の話になれば、更にそれぞれのお考えがあると思う。

冒頭事務局から説明があったが、一応今年度はこれで区切りをつけ、

来年度に引き続いていきたい。今後幾つかの手順を経て、共生ビジョンが策定されるわけだが、複数の市町が圏域というものを形成し、これを突破口にして、市町単独ではできなかったことを実現させていただきたい。行政がきちんと動いて、実現させていかなければならない一方で、民間や住民も市町の範囲を越えて、知恵を出していけば、色々な取組が実現できるのかなと思う。これからも情報交換ができればと思っている。

5 その他

(1) 今回の第3回懇談会をもって、平成26年度内の懇談会は終了となる。委員の任期は平成28年3月31日までとなるので、次年度も引き続きお願いしたい。

なお、平成27年度の会議は7月頃に開催予定。

(2) 平成27年2月20日（金）に定住自立圏シンポジウムを那須野が原ハーモニーホールで開催する。元総務大臣の増田寛也氏を招いて基調講演、パネルディスカッションを予定している。委員の方にも案内状を送付させていただくとともに所属団体内にも案内していただき多くの方に来場してほしい。